
俺の 俺様の 学校LIFE

まりお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の 俺様の 学校LIFE

【著者名】

まりお

【あらすじ】

どこにでもあつたうなよくあつげなお話

「夏だな . . . 。」

何故、突然こんなよくありげなことを、物語の冒頭から唐突にいわなければならなかつたのか、特に意味はない！！、別に思い出にひたつているわけでもなく、将来のことを考え、嘆息してるわけでもない、物語に一切関係なし！！

2007年の8月」る。8月といえば必ずひとつずつ単語が頭に浮かび上がつてくるだろう、そう「夏」だ、この物語は、主に「夏」という、学園系にはぴったりな季節の中で語られる、まあ解説っぽいことなんてどうでもいいからとりあえず本編へ行こうつじやないか、別に不思議でもない、映画の世界や小説のような、心躍るファンタジーが待つていてるわけじゃない、ちょこっと矛盾してて、ちょこつとくだらないお話 心の準備はいいかい？それじゃあ、そろそろ舞台の幕をあげよう

「認めねえ . . . 」

窓から2列ほど向こうに座つてている男子生徒が、そつそつぶやき、陰険な視線を向ける

「 . . . 何を認めないんだ？」

視線の先には、窓際という絶好なポジションに居座り、涼しそうな顔をした男子生徒が一人
「だ～か～ら～、なんで俺様をさしあいててめーだけこの季節には反則的に最高なポジションにいるんだよ！～～！」
「さあな、まあ、ぐじ引きで決めたのだから仕方あるまい、なんなら神にでもきてみればどうだ？」

「だあああっ、俺は神様なんぞ信じてねえし、いや……までよ……神様へるふみい——！——！——！」

あきらかにおかしな発音でそう叫び、席から立ち上がる
「はしつつあつぱい」

なんのこもりた?

窓際の男子生徒が、あきれたような口調でたずねる。

神頼みたよ!! 神頼み!! ほら ここにきて祝ってねは
しーか神

様が俺の願いを聞き届けて

「馬鹿か」

間髪いれずにつつこむ

なんだと!!!! もとほしえはお前が神様なんだと

卷之三

どうやら授業中だったらしい、教師が、たえられず参考書を教卓に

叩きつけ叫ぶ

一
だ
て
よ
う
こ
い
つ
が
・
・
・
・
・
・
・
グ
ハ
ア
ッ
！
？

あく漫画であつて、な
チミリケ投げといへる名の神業が見事に窺に

七

卷之三

それは、蝉達が死に急ぐように泣き喚く季節のお話

えーと、久々の投稿です、下手ですが少しでも楽しめればうれしい
かぎりで

「ハハ……ドコ?

寒イヨ……寂シイヨ……

誰もいない渡り廊下に、真っ赤な服をきた少女一人、今にも消え入りそうな、か細い声、それなのに、鼓膜にこびりついて離れない、哀しい声。

「でね、真っ赤な服をきた女の子が、誰もいない渡り廊下を夜な夜な何か咳きながら歩いてるんだってさーっ！」

そんな話をしていたのは、いつものような、平和な放課後だった

「まじでー？」

とりあえず俺は、そんな怪奇現象やら、七不思議とか学校の怪談とかおばけの太郎、などなどにはあまり関心がないので、曖昧な返事をかえしておく

「いやあ、私も他の人から聞いたんだけどねえ、みつかると……一緒にあっち側の世界に連れてかれるんだってさあーー！」

「へえ、そなんなんだ」

「反応薄……なんで?、もつと反応してよおーーー！ キャー、とか、怖いーーーとか」

「キャー、こわーい」

言つては見たものの、俺はいちょう男だぞ?、キャーって……、「泣くぞこら」

「はは、悪い悪い、でもさ、都市伝説なんてものはなあ、人から人へ語り継がれているうちに、尾びれをつけて、都合のいいように変わっていくものだぞ?」

「信じないでしょ」

「え?」「

まずい

「いや、信じてるよー。」

「嘘だ、絶対疑ってる。・・・・・

やばいやばいやばい

「ねえ、こんな言葉しつこい?・

やつやめろ、落ち着け

「百聞は一見にしかずつしね!—」

見上げると、押しつぶされそうな威圧感、学校つてすーいなあ、なんてくだらないことを考えている場合じやない、一刻もはやく、このふざけた状況から抜け出さなくては

「な、なあ、そろそろ帰らなきゃ?」

「ダメ」

物凄く単純な答えを返しやがった、そういうえは最近CMで、シンプルイズザベスト、なんていつてたつけな、でもな、人間いろいろ装飾語とか?いろいろ文法まじえて発言しないと、勘違いされちゃうんだぞ?、ほら、お菓子にはよくおもちゃがついてくるだろ?、あ、これは違うか

「絶対確かめるまで、かえらないもんつ」

「えーと、俺はいい子だからそろそろ寝ないと・・・・・。」

「・・・・・・・・・。」

そんな可愛らしげ、頬をふくらませられても・・・・・

「あーわかつたよ、いけばいいんだろ」

「それでよしつ！」

• • • • • • •

「とにかく進め!!」「じゃあ!!」「

まごたぐ 怖いな^レ 怖いとし^レ てくれ
人體素直^レ はな^レ なしと
人 生樂しくないぞ?

「でも、どこから入るの？」

二二

「おいおい、どこの漫画じゃないんだぞ？ 第一不法侵入だろこれ」

「そんなときにしてちゃ、人生楽しくないぞう？」

俺は樂しみとひきかえは
人生には忍りたくなしんたにと

「あれ、玄関鍵かかってるな、これは諦めてかえるしか……」

「おお、あいてるじゃないか一つ、理由付けてかえらうつたつて無

「ニニニ、魔女がいたのを知らなかったのか？」

「言い訳無用」

「何が何でもおとを逃げ出さない」

確かに、昼間は生徒で溢れ返っていた、賑やかな教室、部活動が行われていた体育館、どれもこれも静かで、まるで異次元にきたよう

な感覚だ

「おい、もう帰ろう、全部まわつたろ」

「うう、私、嘘ついてないもん」

「わかつた、信じるから、な？」

「本当？」

「ああ、大丈夫だつ・・・・・で」

「いま・・・何か

「どうしたの？」

「あ、いや・・・」

「なんだ・・・・」

「はつ、早く帰ろつ！・・・」

思わず手をとる

「いたつ、どうしたの？」

早く、この場から逃げなければ

「走れ！・・・」

あの時、冗談でも、答えていればよかつた

カツン カツン カツン

「えつ何！？」

カツン カツン カツン

急げ！まだ、まだ間に合つ！・・・！

カツン カツン カ・・・・・

そんな、今にも消え入りそうな、か細い声を聞くと同時に、俺は意識を失った、意識が暗闇に落ちる瞬間、目の前に、真っ赤な影が落ちていた、そんな気がした

夢を見た

小さな女の子が、戦争でもあつたのか、荒れ果てた地面を、ただ一人歩いている

目的もなく、帰る場所もなく、ただ、歩いている

「寒いよ、寂しいよ、みんな、どうこうひやひやしたの？」

真つ赤な惨劇を、まるで洗い流そつとかぬよいつて、真つ白な雪が、あたりを包んだ

「お・・・・・ね・・・・」

んー五月蠅い、まだ起きる時間じゃないぞ

卷之三

「國學研究」

「おおーーじょなーー、せつせつと咲んでーー。」

で、ついでに扉をあけていたよつだ

「つて、さつさの声は？」

「なにこつてるの？・・・・氣味悪いわね」

「えつ、聞けなかつ、いや、なんでもない、それより帰ろつ」

帰り道、校舎をふりかえる、そこには、赤い、哀しい亡靈が、帰る
場所を探して、歩き回つてゐるやつな、気がした

なんか よくあいげな話すぎますねw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0838c/>

俺の 俺様の 学校LIFE

2010年10月12日08時05分発行